

よみがえ

なぞ き の じょう

『甦る! 古代吉備の国～謎の鬼ノ城』調査開始!

岡山県古代吉備文化財センターでは、県の「新世紀おかやま夢づくりプラン」の一つとして、国指定史跡鬼城山（総社市奥坂）城内の発掘調査を7か年計画で行うことになりました。

初年度にあたる今回は、平成11年度に当センターが実施した確認調査の成果で居住地の可能性が推定されている箇所に、詳細な内容を把握するため、より広い調査区を設定し、7月～12月に発掘調査を行う予定です。

ここでは、現在までの調査成果や発掘作業の風景、そして開催された各種イベントの様子を皆さんにお伝えします。



謎の鬼ノ城

石列・柱穴を検出！

第1期調査区のほぼ中央に、石が長さ約2mの規模で列状に並んでいます。この位置が尾根上の平坦な部分の端にあたることや、付近の土層の観察から、建物の土台や区画の一部である可能性が考えられます。また、石列の付近では、柱穴と考えられる穴も検出されました。規模は不明ですが、この場所に建物が存在したことは確かなようです。

その他、壁や底が熱を受けて赤褐色に変色し、多量の炭を含む土が入った土壌（穴）も発見されています。



石列

壁や底が焼けた土壌



うらババ

城内での活動を示す土器片の数々

今回の調査でとりわけ注目されるのは、円面硯の発見です。硯の存在は、城内で文字が使われていたことを意味します。

他に、須恵器の杯・甕、土師器の甕の破片が出土しています。前者は食器や貯蔵容器などに、後者は煮炊きに用いられたと推測され、当時の人々の日常生活を垣間見ることができます。

いずれも7世紀後半～8世紀初頭頃のものと思われ、鬼ノ城に関わった人々が残したと考えられます。



甕

うら坊

円面硯（脚部の破片）

つきぶた
杯蓋

城内調査大公開・夏休み少年少女鬼ノ城教室

調査成果や現場での作業の様子を一般の方々に見ていただくため、8月7日～12日の6日間、「城内調査大公開」を開催しました。連日、気温35℃を超える炎天下の中を約200名の方に参加していただきました。発見直後の円面硯や石列に、皆さん熱心に見入っておられました。

また、8月19日・20日には、小学生とその保護者を対象とした「夏休み少年少女鬼ノ城教室」を開催し、計30名が参加されました。復元された西門等の見学と、地形測量など発掘調査の体験教室を行いました。（飯田浩光）



調査中の現場で
（城内調査大公開）

西門にて
（鬼ノ城教室）



うらママ

街中の発掘調査

鹿田遺跡 岡山市鹿田本町

県立岡山病院第Ⅲ期整備事業に伴う発掘調査です。今回の調査では、平安～鎌倉時代の集落跡が姿を現しました。注目される発見として、6基の井戸と、同じ場所に繰り返し掘り直された鎌倉時代の溝があげられます。

井戸は平安～鎌倉時代のもので、そのうち約半数から大量の炭や焼土とともに土師器の鍋や椀などが出てきました。井戸を埋める際に、何らかの儀式を行った可能性があります。これまでの成果と合わせると、井戸は比較的集中して存在しており、平安時代中頃（10世紀後半）～鎌倉時代（14世紀前半）の約300年間にわたって継続して利用されていたことがわかりました。

鎌倉時代の溝は、東西方向に掘られていました。見つかった場所が現在の用地境付近であることや、現地表に残る地割りの方向とよく一致することから、この溝は土地を区画する役割も持っていたと考えられ、その土地区画の起源が鎌倉時代まで遡る可能性を示しているといえます。（河合 忍）



市街地での発掘調査



見つかった井戸



鎌倉時代の溝

中島城跡・宮南遺跡 岡山市中島・今在家

都市計画道路竹田升田線街路改築に伴う発掘調査です。中島城跡では今年度、鎌倉～江戸時代の集落跡の調査を行っています。これまでに石垣や井戸・溝などが見つかりました。このうち、石垣は東西方向に7.5mほど残っており、石の隙間からは陶磁器や瓦類が出土しました。これらの遺物から、石垣が造られたのは江戸時代中頃（18世紀）であることがわかりました。しかし、上部はすでに壊されており、どのような施設に伴う石垣であったかは不明です。

宮南遺跡は鎌倉～室町時代の集落遺跡で、建物などが検出されました。集落跡の西端付近では、長さ250cm、深さ80cmの長方形の土壌（穴）が見つかりました。中には河原石が詰まり、それに混じって室町～江戸時代の骨壺の破片が多数出土しました。周辺にあった火葬墓を寄せ集めたものかと思われます。

（小松原基弘・尾上元規）



江戸時代の石垣（中島城跡）



河原石の詰まった土壌（宮南遺跡）

発見！古代美作の製鉄所

しもさか
下坂遺跡

美作市位田

下坂遺跡は、美作市位田に位置し、吉野川から西へ約1km入った、南に伸びる丘陵の西斜面に立地しています。一般国道374号（美作岡山道路）改築に先だて、平成18年4月～7月に発掘調査を行いました。調査の結果、製鉄炉跡と炭焼き用の横口付製炭窯跡とが隣接して検出され、古墳時代の製鉄所の存在が明らかになりました。



北西上空から見た下坂遺跡

製鉄炉跡は、調査区の北端近くで3基が見つかりました。丘陵の斜面を平坦に造成し、そこに炉を築いて製鉄を行っていたようです。いずれも炉の本体ではなく、炉を築く前に作られる基礎の下部構造のみが残っており、底面は高温のために真っ赤に焼けていました。

また、製鉄炉跡の西側斜面には、操業時に出た鉄滓（不純物を含むかす）や炉壁の破片、つまり当時の産業廃棄物が厚く堆積していました。鉄滓層の中からは鉄鉱石も見つかり、原料に鉄鉱石が用いられたことも判明しました。



古代の鉄作りの想像図

（『和銅博物館総合案内』古代製鉄遺構模型を模写改変）



山側に溝を伴う製鉄炉跡



横口付製炭窯跡の調査

横口付製炭窯跡は、製鉄炉群の南側で1基見つかりました。削平を受けて残りが悪いものの、長さ約10m、床面の幅約1mの細長いもので、高い方にはトンネル状の煙道（煙出しの穴）があり、側面には6か所の横口が並んでいます。この横口の並ぶ様子を、淡水魚のヤツメウナギのえら穴に見立てて、「ヤツメウナギ」とニックネームを付けて呼んでいます。この遺構は、製鉄に欠かせない木炭の生産に使われた可能性が高く、横口は焼き上がった炭の取り出し口と考えられています。



製炭窯のトンネル状の煙道

これらの遺構の時期は、製鉄炉跡周辺で出土した須恵器の特徴を参考にする、6世紀末～7世紀初頭と推測され、現在の岡山県内で本格的な製鉄が始まって間もない時期にあたります。また、今回見つかった製鉄炉跡と製炭窯跡は、検出状況から見てほぼ同時期のものと考えられます。同様の例は津山市や総社市でも確認されており、製鉄炉で使う木炭をそのすぐ近くで生産していたことがわかりました。当時の製鉄作業の実態を知るうえで、貴重な資料といえます。



現地説明会の様子

製鉄遺跡の全体像がほぼ明らかになった6月17日には、現地説明会を開催しました。当日はあいにくの小雨にもかかわらず、県内外から約190名の方々に参加していただきました。熱心な質問も飛び出して、製鉄遺跡への関心の高さを実感しました。見学者の皆さんには、この山から鉄作りの煙が立ち上っていた1,400年前の昔へと、思いをはせていただけたことと思います。

（岡本泰典・石田爲成）

考古学入門講座 —この足下に歴史がある—

本年度第1回は、5月19日(金)・21日(日)の両日、当センターにおいて実施しました。講義「考古学って何?」では、「なぜ発掘する場所がわかるのか?」「土器の変化と年代の決め方は?」など考古学の基礎について、映像を用いながら勉強しました。また、体験実習として「弥生土器の復元」も行いました。平日開催は今回が初めての試みでしたが、両日合わせて43名の方に参加していただきました。

第2回は7月23日(土)、会場を津山弥生の里文化財センターに移して開催しました。「住まいの話」というテーマで講義を行い、その後津山弥生の里文化財センター展示室や隣接する沼遺跡の復元住居・高床倉庫を見学し、さらに「石器で木を切る、削る」という体験実習を行いました。51名の参加者が弥生人の気分になった一日でした。(弘田和司)



くっつけることができたかな?



弥生人って疲れる!



展示品の見学

大地からの便り2006

—県内の発掘調査報告会—

今回で19回目となる発掘調査報告会を、8月26日(土)、岡山県立美術館の2Fホール・ホワイエで開催しました。

今回は、赤磐・総社・備前市各教育委員会の協力を得て、弥生時代～江戸時代の6遺跡について、出土品や写真パネル等の展示と、映像を用いた報告を行いました。

当日は約200名の方に参加していただきました。参加者の皆さんが熱心に展示品を見学する様子や、報告に対して質問したりメモを取ったりする様子が見られました。(弘田和司)



報告会の様子

<展示・報告の遺跡>

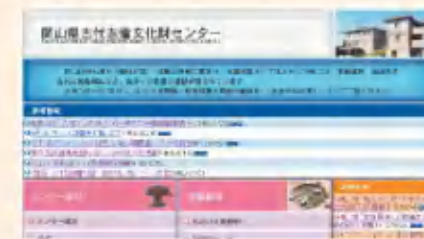
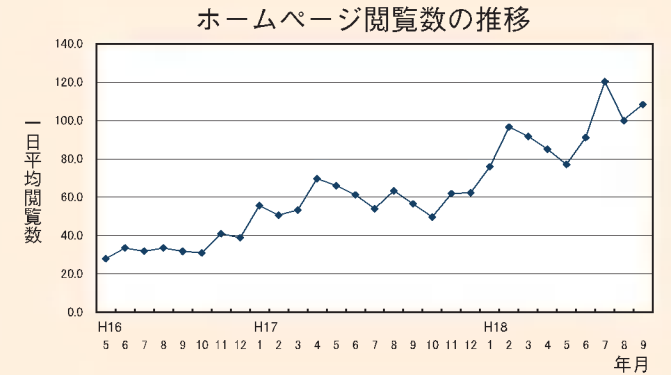
- | | |
|---------------|----------------|
| ①大河内遺跡 (勝央町) | 岡山県古代吉備文化財センター |
| ②穴が遺古墳 (美作市) | 岡山県古代吉備文化財センター |
| ③備前国分寺跡 (赤磐市) | 赤磐市教育委員会 |
| ④御所遺跡 (総社市) | 総社市教育委員会 |
| ⑤中島城跡 (岡山市) | 岡山県古代吉備文化財センター |
| ⑥伊部南大塚跡 (備前市) | 備前市教育委員会 |

ホームページの作成・更新

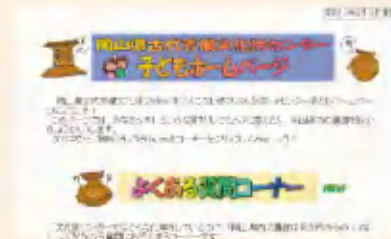
当センターでは、発掘調査の状況や、考古学入門講座等各種イベントの案内・当日の様子などについて、ホームページによる情報の配信に努めています。

今年度当初には、トップページのリニューアルと「子どもホームページ」の新設を行い、7月には「甦る! 古代吉備の国～謎の鬼ノ城」のページを新設しました。この中の「現場ウオッチング!」コーナーでは、当センターで初めての動画配信や現場からの「調査員便り」も掲載しました。

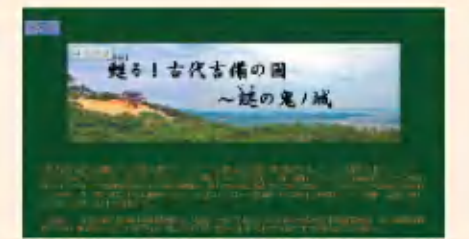
ここ数年、当センターホームページへのアクセス数は飛躍的に増加しており、9月初めには、閲覧数合計(平成16年5月から)が5万件を超えました。今後も、いち早く情報の配信を行い、各ページ・コーナーの充実にも努めていきたいと思っております。ぜひご覧いただき、ご活用ください。(正木茂樹)



トップページ



子どもホームページ



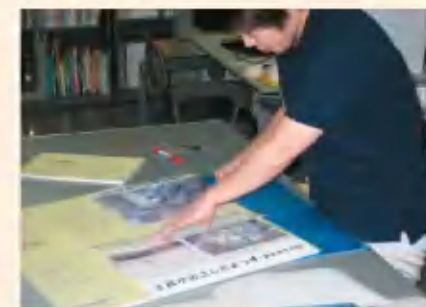
鬼ノ城のページ

展示室から —平成18年度の企画展示—

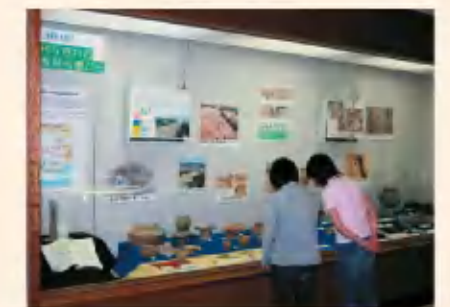
本年度の企画展示では、平成16年度から継続している『最近刊行された発掘調査報告書から』のほかに、出土品をテーマにした『岡山の須恵器』(4/25～6/25)を開催し、年度末には『岡山の木器』を予定しています。

また、夏に行われた『大地からの便り2006—県内の発掘調査報告会—』の延長展示(8/29～9/18)では、勝央町大河内遺跡や美作市穴が遺古墳の出土品とともに、総社市・赤磐市両教育委員会のご協力で、総社市御所遺跡の呪符木簡や土器、赤磐市備前国分寺跡の磁器や瓦などの貴重な出土品を展示することができました。(柴田英樹)

企画展示	
『最近刊行された発掘調査報告書から』	
1回「宮ノ上遺跡ほか」	(6/27～8/27)
2回「南方遺跡」	(9/20～12/3予定)
3回「平岩古墳ほか」	(12/5～2/4予定)



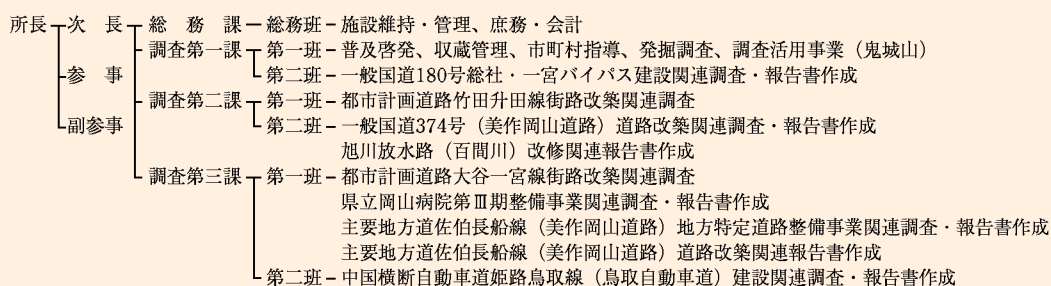
準備が大変!



展示の様子

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員（平成18年度）

<組織>



<職員>

所長 松本 和男
 次長（総務課長事務取扱） 安西 正則
 参事 岡田 博
 副参事 中島 謙次

総務課

課長事務取扱 安西 正則

総務班

総括副参事（総務班長） 若林 一憲
 主 任 小川 紀久
 主 事 堤 弘至・絹輪 桂子
 谷口 恵祥・荒木 正行

臨時職員

中野 良美

調査第一課

課 長 中野 雅美
第一班
 総括主幹（第一班長） 大橋 雅也
 副 参 事 尾崎 光徳
 主 任 正木 茂樹・弘田 和司・柴田 英樹
 小林 利晴（文化財課本務）
 主 事 團 奈歩・和田 剛・飯田 浩光
 臨時職員 光延 秀典

第二班

総括副参事（第二班長） 江見 正己
 主 事 松尾 佳子・田中 政之

調査第二課

課 長 島崎 東
第一班
 総括副参事（第一班長） 井上 弘
 主 任 小松原基弘・渡邊恵里子・尾上 元規
 主 事 藤原 範子・畑地ひとみ

第二班

総括副参事（第二班長） 二宮 治夫
 副 参 事 下澤 公明
 主 幹 高田恭一郎
 主 任 岡本 泰典
 主 事 石田 為成

調査第三課

課 長 平井 泰男
第一班
 総括副参事（第一班長） 内藤 善史
 副 参 事 山磨 康平
 主 任 澤山 孝之
 主 事 河合 忍・三浦 孝章
第二班
 総括副参事（第二班長） 福田 正継
 副 参 事 浅倉 秀昭・岡本 寛久
 主 任 氏平 昭則・物部 茂樹・小嶋 善邦
 主 事 上村 武・上西 高登



メールマガジン「大地からの便り」読者募集中!



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市西花尻1325-3
 TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内 ●JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
 ●JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分

●業務時間 AM 8:30~PM 5:15

●休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

●展示室の開館 AM 9:00~PM 5:00
 年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
 ただし、臨時に休館することがあります。



なくしていこう、差別・偏見・いじめ